

F—9 都市化の影響による農家の転地・転業と家族関係

—旭川市永山地区における事例調査—

北日本学院大短大 金田 正一

1. 現在都市化は重大な問題である。都市の激しい膨張力は都市域の拡大、展延をたえず行ない、都市を囲む農村の中へ市街をつぎつぎにくいこませて行く。その接触部では、都市と村落のいりまじった郊外地ができる。このような、都市近郊農村において本来の農村的土地利用から都市的土地利用への転換がなされる場合に、換言すれば、土地形態面における都市化にともなう農業経営の物理的な壊滅が進む際に、従来からそこで営農を続けてきた農民は具体的にどのような方向を辿り、分化・分解して行くのであろうか。この過程において各農家は転業、転地、息子の就職等に対面せざるをえない。そうして転換時には過去の意識構造・生活構造の変化の総量が顕在するであろう。都市化の影響による転地・転業を通して農家の意志決定に際しての内的な構造連関を、各人の役割構造という面に重点を置き明らかにしようとするのがこの研究の目的である。

2. 事例研究であるので個別的な質的データ—生活記録、日記、手紙等—を使用した。中心を占めるのは家族員個々との多数回に及ぶ面談である。

3. 個別的な事例データに即しつつその背後にある普遍的な問題状況を透視的に展望する方法をとった結果、農村における都市化の急激な進展は社会的基盤の変化に直接結びつき農家の家族関係を表面的に伝統的なものから離脱させるだけでなく根底から変化させてきている。